

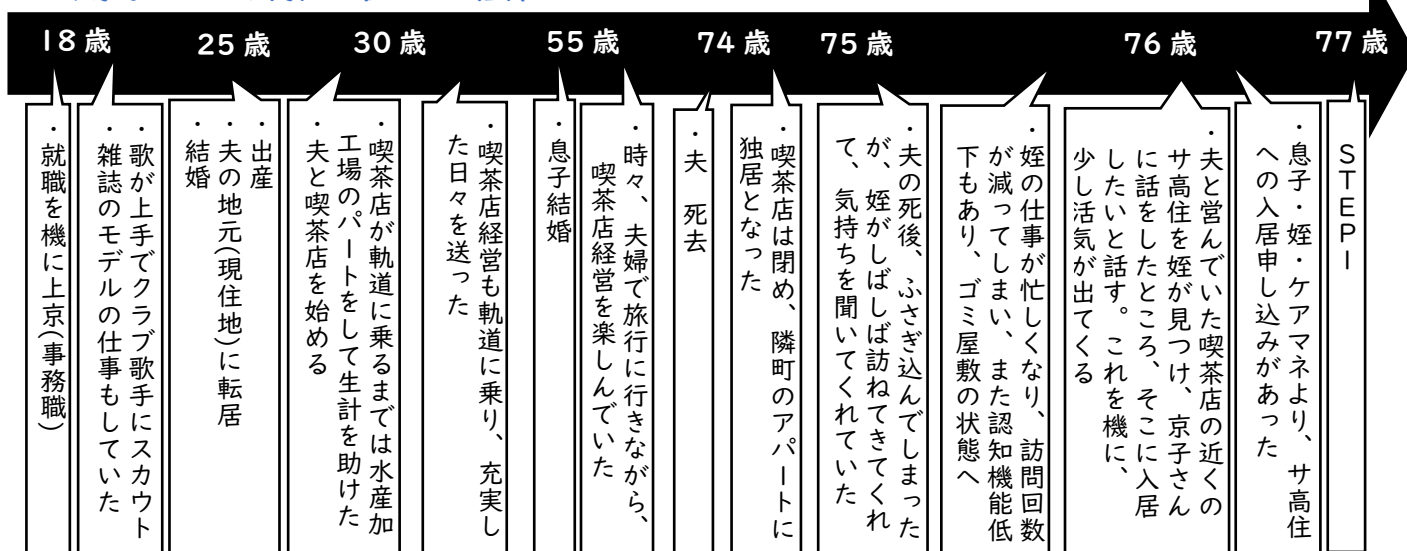
タイムテーブル

開始	終了	時間	プログラム	主旨、構成内容	
8:15	9:00			受付	
9:00	9:15	15	イントロダクション	事業概要・目的の説明 講師・ファシリテーター紹介	
9:15	9:25	10	ガイドラインに 基づいた意思決定 (総論)	講義 ガイドラインの内容確認	
9:25	10:40	75	Step 1 本人の意思決定 する力を考える	9:25～ (15 分)	講義
				9:40～ (5 分)	アイスブレイキング
				9:45～ (20 分)	グループワーク
				10:05～ (20 分)	全体共有
				10:25～ (15 分)	まとめ
10:40	10:50	10	休憩		
10:50	12:20	90	Step 2 本人の意思の 確認ができる場合 の進め方	10:55～ (30 分)	講義
				11:25～ (35 分)	グループワーク
				11:55～ (15 分)	全体共有
				12:10～ (10 分)	まとめ
12:20	12:30	10	質疑応答	STEP 1・2に関する質疑応答	
12:30	13:15	45	昼食		
13:15	14:40	85	Step 3 本人の意思を 推定する	13:15～ (20 分)	講義
				13:35～ (10 分)	動画
				13:45～ (20 分)	配役決定・個人ワーク (5 分) ロールプレイ (15 分)
				14:05～ (15 分)	グループ内まとめ
				14:20～ (10 分)	全体共有
				14:30～ (10 分)	まとめ
14:40	14:50	10	休憩		
14:50	16:05	75	STEP4 本人にとって最善 の方針について 合意する	14:50～ (20 分)	講義
				15:10～ (30 分)	グループワーク
				15:40～ (20 分)	全体共有
				16:00～ (5 分)	まとめ
16:05	16:20	15	質疑応答	STEP3・4に関する質疑応答	
16:20	16:40	20	振り返り	グループワーク 研修の感想、明日からの具体的な行動を共有	
16:40	16:55	15	まとめ	講義	
16:55	17:00	5	事務連絡	事後アンケートの説明	

事例の概要

武田 京子 さん	
【Step1】	
◆家族◆ <ul style="list-style-type: none"> ・県外に息子夫婦と孫一人。嫁との関係性が悪く疎遠になった。 ・夫は3年前に他界。二人で喫茶店を営んでいた。 ・姉とは親しくしており、姪が小さい時に京子さんがよく面倒をみていた。姉が亡き後、姪は京子さんを母親のように慕っている。 ・仕事が忙しいながら、姪がよく京子さんのもとを訪れ、話し相手となったり、身の回りの世話をしてきた。京子さんは、「姪が私のことを一番分かってくれている」と話している 	◆ジェノグラム◆
◆既往歴◆ <ul style="list-style-type: none"> くも膜下出血(65歳)、高血圧、糖尿病、認知症疑い：短期記憶障害あり・変形性膝関節症 	◆住まい◆ <ul style="list-style-type: none"> ・夫の死去後、2年間独居 ・サービス付き高齢者住宅に入所して1年
◆ADL・IADL◆ <ul style="list-style-type: none"> ・杖歩行で自立していたが、転倒することもあった。3ヶ月ほどで変形性膝関節症の痛みがひどくなり、歩行が困難になってきている。 ・金銭管理は難しく定額を手渡している ・内服は職員の確認が必要 	◆楽しみ・趣味◆ <ul style="list-style-type: none"> ・歌はとても上手だが、人前で歌うのは恥ずかしいので、カラオケでは歌わない ・夫が亡くなって毎日お酒を飲むようになった
◆京子さんの状況◆ <ul style="list-style-type: none"> ・近くのコンビニに1人でお酒を買いに行くので、転倒が心配なのと、お酒を多く買ってしまうことを息子と職員は心配していた ・部屋に籠って、一人で飲んでいることが多い ・日頃から病院に行きたくない、また隣のデイサービスを勧めても、行く気はないと話している 	
【Step2】	
<ul style="list-style-type: none"> ・最近の変形性膝関節症により一人では施設の玄関までは歩けなくなった ・元々病院嫌いで病院になんとか連れて行っていたが、歩行が難しい状況となったため、3ヶ月前から訪問診療が開始された ・最近、時々血尿を認めることがあったが、本人は病院での精査を希望せず、訪問診療医から止血剤処方経過をみていた。 ・ある日かなり大量の血尿が2日続いたため、このまま経過観察で良いか、本人、介護職員、ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師で話し合いをすることになった。 	

◆京子さんのサ高住入居までの経緯



Step1 本人の意思決定する力を考える

学習目標

1. 本人の意向を知るためには、信頼関係を構築することが重要であることを理解する
2. 日常ケアの中で価値観や選好を探ることが意思決定に重要なことを理解する
3. 本人の意思決定する力を高めること(＝エンパワメント)の重要性を理解する
4. 本人の意思決定する力を評価するときのポイントおよびその際の注意点を概説できる

グループワーク

◆ アイスブレイク (5分)

所属、名前、「最後の晩餐として何が食べたいですか？」を共有

◆ ディスカッション (20分)

○ディスカッションテーマ

- ・ 京子さんと信頼関係を築くにはどのような関わりが必要か？
- ・ 京子さんの価値観や選好を把握するためにどう関わるか？
- ・ どのような支援をすると京子さんの意思決定する力が高まるか？

※司会・発表者はあらかじめ決まっていますので、名簿をご確認ください。

Step1 ワークシート

動画を見て、特に京子さんの経験、また意向や思いについてメモをとり、情報を整理してみてください

STEP2：本人の意思が確認できる場合の進め方

学習目標

1. 意思決定の目的は医療の選択ではなく、納得できる生き方の選択であることを理解する。
2. 介護従事者の日々の関わりそのものが、その人の意思決定支援において非常に重要なプロセスとなることを認識する。
3. 意思決定において、医療職は日常ケアに関わる介護従事者の意見に耳を傾ける姿勢の大切さを認識する。
4. 多角的な視点での情報整理に資する4分割表の活用方法を理解する。
5. 意思決定の際の留意点について理解する。

グループワーク

◆ ディスカッション（30分）

○ 4分割表を用いた多角的な情報の整理（10分以内）

- ・4分割表で、京子さんに関する情報を多面的に整理する（本人の意向・QOLの欄を検討）

○ ディスカッションテーマ（20分以上）

- ・京子さんの意向をさらに引き出すには、どのようなアプローチがあるか？
- ・どう情報提供し、どのように質問し、どのように話し合うことで、本人の意向が反映された医療やケアに繋がれるかをディスカッションする

STEP3：本人の意思を推定する

学習目標

1. ご本人の明確な意思が確認できないとき、意思を推定する方法を理解する
2. ご本人の意思が確認できないが家族等がその意思を推定できる場合、推定意思を尊重するための方法を具体的に説明できる
3. 家族等がご本人の意向を推定できるように、エンパワメントすることができる
4. 常にご本人が意思を表出できる可能性はないかを確認する
5. ご本人にとっての最善を考えるために、その人が固有に持つ価値観、人生観に関する情報を得ておくことの重要性を理解する

グループワーク

ロールプレイの設定

設定）今後の治療・ケアの大まかな方針を立てるためにも、まずは息子に病院における普段の京子さんの様子を見てもらうと同時に、サ高住のスタッフも呼ばれて、関わる人たちで京子さんの推定意思を確認することとなった

◆ 配役決定、個人ワーク、ロールプレイ（20分）

○ 配役決定、個人ワーク（5分以内）

1. 配役決定

ファシリテーターが配役を決定し、メンバーに伝える

※ファシリテーターより、姪、息子、サ高住ケアスタッフ、MSW、病棟看護師、ケアマネの配役を決定する。人数が足りない場合は、姪・息子・サ高住スタッフ、MSWは必須の配役とする。

2. 個人ワーク

役割を担うための情報や思考の整理をし、各自、どんなふう to 演じるかの方針を検討する

○ ロールプレイ（15分以上）

- ・ロールプレイの目的は、京子さんの意思を推定する体験をすること。
- ・ロールプレイ上のカンファレンスの司会は、MSW 役の人が担う。

＜具体的な進め方＞

- ・MSW 役：「今日は、京子さんなら、どのように今後を過ごされることを望んでいるかを考えてみたいと思います。京子さんの意思や 価値観、希望について、皆さんの把握されていることをまずは共有していきましょうか？」とスタート
- ・姪、サ高住のスタッフの順で話をしてもらう。
- ・息子に、姪、サ高住スタッフの話を聞いて、どう感じたか、また京子さんならどう 考えるかを話してもらう
- ・病棟看護師役、ケアマネジャー役にもコメントをもらう
- ・その後、全員で、与えられた役を演じながらディスカッション

○ グループ内まとめ(20分)

- 京子さんの意向を推定するために、医療・ケアチームが、姪や息子に対しエンパワメントができたかにフォーカスしたフィードバックをする
- ・姪・息子役の皆さんは、京子さんの意向を推定する、京子さんの最善を探るということに意識を向けることに繋がる医療・ケア専門職役の関わりがあったかについてフィードバック。
- ・医療・介護従事者役は、京子さんの意思を推定するために、自分がどのように話し合いをすすめようと思ったか、姪・息子役からのフィードバックを受けて、どう感じ、どう関わりを改善したらよいと思ったかを伝える

Step 3

動画を見て、京子さんの意向を推定するための情報、また息子や姪の思いや医学的適応に関する情報などについてメモを取り、情報を整理してみましょう

Step 4：多職種および家族等も含め、慎重に本人にとって最善の方針について合意する

学習目標

1. 意思決定に関する推奨または提案を行う上での重要な点について整理することができる
2. 異なる職種や立場をもつ者の視点や価値を尊重しつつ、合意形成を行うために必要なことが理解できる
3. 本人の意思が確認できない状態において、本人にとっての最善の利益となる医療・ケアを多職種チームで考えるポイントを概説できる

グループワーク

本来の職種で、退院前カンファレンスの前に実施される、多職種による事前協議の場をイメージ

◆ ディスカッション (30 分)

Step 3で話し合った「京子さんの大切にしたいこと、これからの過ごし方への願い」の実現に向け、京子さんにとっての最善の方針について合意形成をし、また具体的な医療やケアの提案について議論する。

- 1) 倫理原則に則って検討し、本人にとっての最善」を中心に話を進める
- 2) 多職種それぞれが認識している状況について、それぞれの立場で提示し合い、認識の違いなども含めて理解しあう
- 3) 大まかな方針を決定する
- 4) どのような 医療・ケアを提供することができるかを話し合う
- 5) その後、本人・家族等との対話の進め方について議論する

振り返りグループワーク

◆ ディスカッション (20 分)

ブレイクアウトルームに分かれ、以下を共有ください。

- 1) 本日の感想
- 2) 明日から、どんな活動に繋げていこうと思うか